



インドネシア

ジャカルタ

2011年2月～2015年1月
(2020年記 2022年更新)

子どもの年齢

長男 10th～12th インター校
長女 9th～12th インター校

基本情報

気温	赤道直下の常夏の国 季節は2つ、乾季(概ね4月から9月)と雨季(10月から3月) 乾季はからりとした晴天が続き、雨季には激しい雨が短時間に降る 平均最低気温 23 度、最高気温 30 度 乾季の湿度は日本より低いので、一時帰国した時など日本の方が暑く感じる
緊急電話	警察/緊急;110 救急車;119
電圧	220V 日本の電化製品を使用する場合は変圧器と変換アダプターが必要
水	水道水は飲めない 飲み水はミネラルウォーターをペットボトル又はガロンで買う 野菜を洗ったりなど料理にもミネラルウォーターを使用する 駐在員が住むアパートメントには殆どの場合ミネラルウォーターのデリバリーサービスがある 浄水器に取り付けフィルターを定期的に交換することも出来る

買い物

日本の物	そごう、イオンモール、ダイソー、日本のコンビニもあり、基本的な物は手に入る
食料品	日系食材スーパーのパパイヤ他、外国人向けスーパー Kem Chicks, Ranch Market またローカルスーパーHero 等でも購入出来る 日系以外でも日本の食材、調味料やお菓子を取り扱っている所が割とある 日本から空輸で送られてくる生鮮食品(旬の魚や卵など)から、現地で作られる食品(納豆など)まで色々ある フルーツは現地の物が種類も豊富で美味しく、日本に比べて安価
日用雑貨	Carrefour やモール内にある ACE(ローカル向けホームセンター)等で買える
学用品	インター校では校内に売店があり、そこで購入 特に米国で通常利用されている TI 製関数電卓はジャカルタではここでしか買えなかった その他には紀伊国屋や現地の文房具屋でも基本的物品は購入可
衣類	現地のブランド、日系のユニクロや無印良品、欧米ブランドなどをデパートやモールで購入可 高級な品物から安価な品物まで様々、偽物もある 水着は宗教上理由でイスラム教徒用の全身を覆うタイプしか販売されていない バトミントンが盛んでウェア、グッズも豊富 その他のスポーツは全般的に種類が少なく値段も高め

交通

公共交通

バス、電車などの公共交通機関はあるが、駐在員の移動は基本的にドライバー付きの車
タクシーを利用するなら BLUE BIRD のブルー車かシルバー車のみ
それ以外のタクシー会社は避けた方がよい

運転免許

駐在員が自分で運転することはないので運転免許を取得する人はいない

住居

住宅事情

アパート、サービスアパートメント(掃除、洗濯、シーツやタオルの交換、朝食などのサービス付き)、コンプレックス戸建て(集団住宅地内の一戸建て)、一戸建て(庭付き、プール付きなど)がある
アパート、サービスアパートメントはジム、プール、テニスコート、ゴルフ練習場(屋内)、コンビニ、美容院、レストラン(日本食やイタリアン)など併設もある
アパート、サービスアパート建物自体は塀で囲まれており入り口にゲートがある
ゲートには 24 時間体制で警備員が常駐、基本敵には住んでいる人しか敷地内に入れない
コンプレックス戸建てでも入り口にゲート、24 時間体制で警備員が常駐
一戸建ての場合は警備員を自分で雇う
駐在員はセキュリティの面からアパート、サービスアパートメントに住んでいる人が多い

日本人が多く 住むエリア

ジャカルタ日本人学校に通う子供のいる家庭はポンドックインダに集中している
渋滞が激しいのでそのエリア以上離れると通学の負担が大きい
ポンドックインダのアパートからは日本人学校への送迎バスが出るところもいくつかある
インター校に通う子供のいる家庭は、それぞれのインターに比較的近いエリアに住んでいる
それ以外の家庭は日系企業により近いスナヤンからグランドインドネシアの範囲に住む人が多い
そのエリアでも特にモールに直結のアパートメントは生活に便利で人気、ホテルのレジデンスも住みやすさと安全性から需要が高い
チカラン日本人学校が開校以来チカランに住む日本人もいる
チカランの場合モールに近い生活が便利なエリア、または日本人学校に直結・近いエリアに住むケースが多い

使用人

アパート、サービスアパートメントに住むならドライバーとメイドを 1 人ずつ雇う
コンプレックス戸建てならそれに加えて庭師を、一戸建てならば更に警備員 2 人ともう 1 人メイドを雇うのが一般的
ドライバーは会社から手配される、又は自分で雇う
自分で雇う場合は帰任者から引き継ぐ、又は派遣サービス会社から雇う
メイドには住み込みと通い(フルタイム、パートタイム)がある
掃除、洗濯、お料理、買い物などをお願いできる
メイド紹介所もあるが、帰任者からの紹介状を持ったメイドを雇うのが一般的、それ以外だと日系スーパーの掲示板などから探す
最近ではメイドを雇わずアパートの提供する清掃リネン交換サービス等を利用する人も少なくない

治安 セキュリティ

治安、セキュリティはあまり良くない
駐在員の行く比較的高級なモール建屋内やインター校の学校内は歩ける
それ以外は街中を歩いたり公共交通機関の利用は避け、ドライバー付き車を使う

モール内でのスリ、歩道でのひったくりや強盗、バス(トランスジャカルタ)乗車中の強盗被害もある
GO-JEK や Grab などのデリバリーサービス受け取りもアパートメントではフロントに頼むのが望ましい

教育

通った学校 インター校

**通った学校の
詳細**

アメリカ系インターナショナルスクール
キンダーから 12th まで、日本を含む約 60 か国の生徒が在籍
アメリカの教育システムにそった教育を受ける
11th から 2 年間インターナショナルバカロレア (IB) の授業がある
文化系スポーツ系などクラブ・サークル活動も充実
通年の活動とシーズン毎の活動があり、色々なことにトライできる
インターナショナルデー、アースデー、パジャマデーなど楽しいイベントも多い
親もボランティアなどで学校行事に参加する機会もある
保護者の会がある、それとは別に日本人会もあり、どちらも定期的にミーティングがある
敷地に恵まれ設備や環境は素晴らしいが学費はやや高め

**塾
家庭教師**

インター校対応の塾はない
インター校対応のネイティブ家庭教師は数人のみ
日本人学校対応、日本帰国に向けた準備対応(受験など)の塾は幾つかある
日本から通信教育教材を取り寄せている人もいる

習い事

日本人会によるクラブ活動と個人での活動がある
インドネシア人による習い事(水泳、バトミントン、テニスなど)もある
その他ではヤマハ音楽教室、公文教室など

アドバイス

インター校の 10、11、12th は宿題も多いので習い事の時間を取るのが難しいです
インドネシア人はこちらの都合に合わせてアパートに来てレッスンをしてくれ、融通がききます
謝礼も日本に比べるとそう高くないので、利用すると便利です

病院

医療事情

一部に近代的設備の整った病院もあるが、全体的な医療水準は高くなく、衛生面、技術面のレベルも低い
その為現地の裕福なインドネシア人はシンガポールの医療機関へ健康診断や治療に行く
駐在員は殆どが日系の病院へ行く(日本人医師又は日本語が話せるインドネシア人医師や看護婦がいる)
その他ではインターナショナル SOS(英語又はインドネシア語)、ポンドックインダ病院(インドネシア語)のいずれかに行く人が多い
誤診もある為健康で気になる場所があれば日本に一時帰国した時医師にかかる人が大半

日本人医師

日本人医師は数人(勤務医と開業医)がいる

薬品

日系スーパーなどで日本の薬を買える
多少割高で種類も少ないので、風邪薬、胃薬、下痢止めなどの基本的薬は日本から持って行くほうが良い

交流

日本人	子供が通う学校の日本人会での親同士の交流や自分の習い事での交流がある 殆どの会社では駐在員の奥さんたちの会があり定期的に集まる
現地の人	自分の習い事や趣味を通し知り合いになるチャンスがある 子供の習い事を通して話す機会もある 親日的な人が多く、向こうから声をかけてくれる
駐在外国人	インター校のボランティア、保護者の会などで交流がある 子供が友達とお互いの家を行き来したりすることで、ご両親とも話したりお付き合いが始まることもある 同じ駐在員同士なので現地の人より話題が合うこともあるが、自分から積極的に話しかかることが必要

伝えたいこと

ジャカルタは日本食材も手に入り日本食レストランもあり、日常の暮らしにほぼ不自由はないです。一方で渋滞は年々激しくなり、物価は上昇、デモや暴動・外国人への強盗被害も増えている為、精神的ストレスもあります。国民の87%がイスラム教徒なので、宗教への配慮も必要です。またインドネシア人の常識は日本人と全く違うこともあり、日々サプライズもあります。ですがインドネシア人は基本的に親日感情が強く、いつもスマイルでおおらか、細かな事は気にしません。時間の感覚もアバウトで、ジャカルタにはゆったりとした時が流れています。そのような異文化で思春期を過ごした事は子供達の貴重な経験となり、その後の人生へのステップになったと思います。

ジャカルタの主なコミュニティーとしてはジャカルタジャパングラブがあります。生活に必要な情報を得れますし、サークル活動やイベントも開催しています。小さなお子さんをお持ちの方ですとジャカルタマザーズクラブというコミュニティーもあります。情報誌としてはジャカルタ新聞(紙面、または電子版)ほか、週刊、月刊誌もあります。

ジャカルタからはバリ島も近いですし、オラウータンの生息地で世界最大の花ラフレシアも見れるスマトラ島へもそう遠くありません。

言語は英語が通じる場所もありますが、日々の暮らしはインドネシア語が中心です。多少の日常会話ができればストレスが減ります。簡単な単語など知っておかれるとより良いと思います。

貴重な海外での暮らし、安全に気をつけながらではありますが是非インドネシアでの生活を思う存分楽しんで下さい。